

公開セミナー

エコシステムマネジメント(EBM)の基本概念と具体的な進め方:陸と海からのアプローチ

主催: 水産総合研究センター, 共催: 東京海洋大学

日時: 2014年10月13日(月)10:30~17:00

場所: 東京海洋大学品川キャンパス2号館100A講義室

参加費: 無料

定員: 100名

参加申し込み: 10月10日までに下記アドレス宛にメールにてお申し込みください。

宛先: kiyot@outlook.jp

件名: EBM セミナー参加希望

本文: 所属, 氏名

コンピーナー: 清田雅史(水研七国際水研・東京海洋大客員教授), 村瀬弘人(水研七国際水研), 牧野光琢(水研セ中央水研), 東海 正(東京海洋大)

開催主旨:

気候変動や漁業の影響に対する懸念から、海洋においても生物多様性保全や、生態系に基づく管理(EBM, ecosystem-based management, 所謂エコシステムマネジメント)が求められている。EBMは1990年代の北米の森林管理に端を発するアプローチで、皆伐と植林のような平衡理論に基づく最大持続生産がもたらした弊害への反省から生態系の動的な機能に注目し、地域の社会経済活動と生態系の調和を図るため、モニタリングと順応的管理を通じて生態系サービスを持続的に利用する地域ベースの保全管理手法である。しかし海洋においては、具体的な管理目標設定やモニタリング評価手法の検討を先送りにして、海洋保護区(MPA)を設置すること自体をゴールとする短絡的な活動も見受けられる。海洋生物資源の持続的利用と環境保全を実現するために、海の生態系の管理理論と具体的実践方法の構築が急務となっている。

本セミナーはこうした背景を踏まえ、1)陸上の森林管理や河川管理を例としてEBMの基本概念を学び、管理計画やインパクト評価のために用いられる調査手法やデータを検討する。次に、2)海からの事例紹介を通じて、生物資源の持続的利用と環境保全を両立させるための計画立案、合意形成、モニタリングなどを具体的にどのように進めるべきであるか議論を行なう。さらに、森・川・海、林業・農業・水産業の共通点、相違点や包括的管理についても考えてみたい。

《プログラム》

1. 趣旨説明 (10:30~10:45)

清田雅史(水研七国際水研・東京海洋大客員教授)

【第一部:陸から学ぶEBMの基礎と実践】

2. 森林・河川・湿地における生態系管理—その考え方と実践— (10:45~12:30)

中村太士(北海道大学)

昼食(12:30~13:45)

3. 生物多様性の優先保全地域候補の選定:Marxanを使った陸域での具体例と今後の課題

(13:45~14:45)

赤坂宗光(東京農工大学)

休憩(14:45~15:00)

【第二部:海からの事例報告】

4. 海の保全管理をめぐる世界的な動き(15:00～15:25)
清田雅史(水研セ国際水研・東京海洋大客員教授)
5. 日本海ズワイガニ漁業における保護区の設置(15:25～15:50)
山崎 淳(京都府海洋センター)
6. 藻場保全における利害関係者による合意形成に向けて(15:50～16:15)
工藤孝浩(神奈川県水産技術センター)
7. 海洋保護区(MPA)におけるセクター間の役割分担(16:15～16:40)
牧野光琢(水研セ中央水研)
8. 総合討論(16:40～17:00)

以上